

## 東北地方太平洋沖地震における地震発生直後のテレビ報道分析

正会員	○脇田久美子 1*	同	飛田 潤 3*
同	福和 伸夫 2*	同	護 雅史 4*

東北地方太平洋沖地震 テレビ報道 津波警報

## 1 はじめに

災害時のテレビ報道は、被災者の情報入手手段として大きな役割を有する<sup>1)</sup>。東北地方太平洋沖地震では、地震発生後 5 分以内に、各局とも災害情報の緊急特別番組に切り替える対応をした。そして、地震情報発信（各地の震度、地震規模等）、被災者への揺れに対する注意喚起、津波情報発信（津波警報地域、津波高さ等）、津波に対する注意・避難喚起を順次、報道している。NHK 放送文化研究所では初動 10 分とその後 2 時間で各局が伝えた内容を報告している<sup>2)</sup>。本稿では、地震直後からの NHK 総合と東京キー局の報道内容について、地震・津波情報の発信方法と、被災者への揺れや津波に対する避難・注意喚起方法に着目し、全テレビ局が津波の予想時刻・高さの一報を報道するまでの 20 分間に着目し、各テレビ局の対応をタイムラインに従って比較検討した。

## 2 地震直後における各局の初動対応

表 1 に地震発生直後から 20 分間の各局報道の流れを示す。14 時 46 分の地震発生時、国会中継中の A 局は、すぐに緊急地震速報アラームが鳴り、強い揺れに警戒する地域をアナウンサーが読み上げ、2 分後の 48 分に特別番組に切り替わる。背後でスタッフが指示する声が聞こえるなど緊迫した様子が伝わってくる。B 局はスーパーでも地震速報は報じられないまま 5 分後に特番に切り替わる。背後で、多くのスタッフの声が聞こえ、報道フロアではスタッフの一部やアナウンサーがヘルメットを着用し、混乱した様子が映っている。C 局、E 局はスーパーで強い地震が発生したと各地の震度を表示しているが、そのまま通常番組（ドラマ）が続き、4~5 分後に特別番組に切り替わってスタジオのアナウンサーが震度などを伝えていく。D 局は大阪の情報番組中であり、東京中継のアナウンサーが地震に気づくが、CM に入りスーパーで地震と震度が表示される。51 分に東京報道フロアに切り替わり、アナウンサーが報道フロアの混乱している様子を伝えている。

14 時 49 分に気象庁より大津波警報、津波警報、津波注意報が発表される。これを受け、14 時 50 分に A 局は津波警報地図を表示した後、すぐに第 1 波到達予想時刻・予想高さを画面に表示し、アナウンサーが読み上げている。C 局、D 局、E 局も報道した時刻は少し遅れるが、ほぼ同じ内容である。ただし、C 局、D 局はスーパーで各地の津波高さを流しており、E 局はスーパーとアナウンサーが津波高さを知らせている。B 局については、少し遅れ

て津波警報地図は表示しているが、この段階で予想される津波高さ等、気象庁から発表された情報を表示していない。また、アナウンサーが「予想される津波の高さは高いところでは 3m 以上になる可能性もあります。」と報じている。この頃すでに、気象庁から宮城 6m の予想が発表されている。B 局が津波予想時刻・高さを報じるのは 15 時 5 分となる。気象庁から発表された場合の対応も各局で異なることが分かる。

## 3 地震・津波地域に対する各局の呼びかけについて

## 3.1 地震に対する注意の呼びかけ

表 3 に強い揺れに対する注意をどのように呼びかけていたかを示す。C 局は特別番組移行後、津波の情報がそのほとんどを占めており、強い揺れに対する呼びかけはわずかであった。他全局に共通するのは、身の安全を守ること、火の始末は揺れが収まってからという旨の呼びかけである。A 局は山崩れやがけ崩れについて、B 局はエレベータについても触れている。強い揺れに対する注意は、局によって報じられた時間に差はあるもののその内容については、大きな違いは見受けられない。

## 3.2 津波に対する避難・注意の呼びかけ

表 4 に気象庁による大津波警報・津波警報・津波注意報の発令を受けての、各局の呼びかけ内容を示す。A 局は警報が発令されたのち、早い段階で海岸や河口付近に近づかないことと避難の呼びかけを行っている。B 局は地震後の混乱状態が続いており、他局に比べて津波に対する呼びかけは少なく、津波予想時刻・高さ情報を伝えるのも遅れている。D 局は津波避難の呼びかけが遅れている。E 局は海から遠いところよりも高いところへ逃げるなど、他局より具体的な注意喚起を行っている。また、局によっては、避難や警告を促す際に「直ちに・・・避難して下さい」や「絶対に近づかないで」と緊急性を強調している。

## 4 まとめ

地震発生直後のテレビ報道についての比較検討を行った結果、災害情報の発信や注意喚起方法はその内容と報道までの時間において、テレビ局毎に違いが見られた。特に発災直後においては、テレビ局の報道内容は災害被害の増減に大きく影響する可能性があるため、正確さと迅速さが求められる。今回の災害報道を教訓として、災害が発生する場所や災害の種類に応じて、被災者に情報・避難指示をより早く正確に、かつ分かりやすく伝達する方法を考えていく必要がある。

表 1 地震発生直後から 20 分の各局報道の流れ

時刻	気象庁発表	A局	B局	C局	D局	E局
14:46	緊急地震速報	国会中継 緊急地震速報アラーム ↓ 強い揺れに警戒する地域 特別番組に切り替わる (仙台青葉区中継) 緊急地震速報の地域	ドラマ	ドラマ	情報番組 都庁との中継で、揺れを感じている。 ↓ 東京で地震(スーパー)	ドラマ 地震速報(スーパー)
14:48		強い揺れに対する注意 (石巻、東京渋谷中継) ↓ 各地の震度	一瞬、各地の震度地図 ↓ 無人のニューススタジオ ドラマ	地震速報。地震規模と各地の震度を表示(スーパー)	CM 東京の報道フロア ↓ CM 地震情報と各地の震度(スーパー)	念のため、津波に注意(スーパー) ↓ 各地の震度(スーパー)
14:49	津波警報 ・注意報	津波警報地図(全画面) 津波警報の地域 津波に対する注意 津波予想時刻、高さ 最大6m	東京の報道フロア 各地の震度地図 スタジオの揺れの様子を伝える 念のため、津波に注意 強い揺れに対する注意	↓ 津波警報地図(画面端) 東京の報道フロア 津波警報の地域 津波警報地図(画面端)	東京の報道フロア 強い揺れに対する注意 津波警報地図(画面端)	東京の報道フロア 各地の震度
14:50		津波に対する避難・注意				
14:51		(宮城気仙沼中継) 津波予想時刻、高さ 最大6m(画面表示) 津波警報地図(画面端)	津波警報地図(画面端) (新宿、銚子港中継) 各地中継、震度情報を 繰り返す	津波に対する避難・注意	念のため、津波に注意 津波警報地図	強い揺れに対する注意 津波警報地図(全画面) 津波警報地図
14:52						
14:53					念のため、津波に注意 津波警報地図	強い揺れに対する注意 津波予想時刻、高さ 最大6m(スーパー、口頭) 震度、地震への注意
14:54				津波予想時刻、高さ 最大6m(スーパー)	(お台場の火事中継) 津波警報の地域	↓ 東京のスタジオ
14:55				(宮古中継)	ミヤギテレビから放送 (女川原発中継)	津波に対する避難・注意 津波警報地図(全画面) 津波予想時刻、高さ 各地の震度地図
14:56			津波警報地図(全画面) 津波に対する避難・注意 最大3m(口頭)		東京のスタジオ 津波警報地図(全画面) 津波に対する避難・注意	発生直後のTBC本社 (気仙沼中継)
14:57						
15:00						
15:05			津波予想時刻、高さ 最大3m(口頭) 最大6m(スーパー)			

表 3 強い揺れに対する呼びかけ内容

A局	14:48	落ちていて行動して下さい。揺れが収まってから火の始末をして下さい。まず、上から落ちてくるものや倒れてくるものから、身を守って下さい。建物の倒壊や山崩れ、がけ崩れの恐れがあります。テレビやラジオのスイッチを切らないでください。
B局	14:51	まず家具などの転倒に気を付けて下さい。揺れが大きい場合、テーブルなどの下に潜るのが安全です。まず、身を守って下さい。慌てて外に出るのは危険です。エレベーターは使えなくなる可能性があるため、使わないでください。
D局	14:51	火の元ですとか、上から落ちてこないか、身の安全の確保して下さい。家族皆さんの状況ができています。テーブルの下、机の下に潜るなどして、身の安全を図って下さい。外にでる場合は、上から落ちてくるものに十分にご注意ください。揺れが小さくなったら火を消して下さい。
E局	14:51	落ちていて行動して下さい。身の安全に注意して下さい。落下物などに控えて下さい。火の始末も揺れが収まった後にするよう、心掛けて下さい。周りにクッションや枕など体を保護できるものがある場合は、それを頭から被り、また体を保護するなどして、落下物に備えて下さい。

表 4 津波に対する呼びかけ内容

A局	14:51	大津波警報が出ている海岸や川の河口付近には、絶対に近づかないで下さい。海岸付近の方は早く安全な高いところに避難して下さい。
B局	14:57	海岸に近いところでは速やかな避難が必要となります。
C局	14:52	画面に出ている地域の方は、安全な高台に逃げて下さい。直ちに高台など安全な場所に避難して下さい。海岸や河口付近には近づかないで下さい。近くに高台などが無い場合は、高いビルや指定された避難場所などに避難して下さい。厳重に警戒して下さい。
D局	14:55	大津波・津波警報の沿岸では、直ちに安全な場所に避難して下さい(スーパー)
D局	15:00	海の近くにいる人は直ちに避難して下さい。海から離れた高台や丈夫で高い鉄筋のビルなどに逃げて下さい。津波は新幹線以上の速さで襲ってくることもあります。今すぐ逃げて下さい。海に遊びに行ったりはせず、よく知らない場所ならば地元の人に安全な場所を聞いて逃げて下さい。
E局	14:51	河口、海岸付近には近づかないで下さい。
E局	14:55	対象エリアの海岸近くや川の河口付近にいる方は、直ちにその場を離れて、高台や津波避難ビルに指定された建物などに避難して下さい。避難するときは、海からより遠い場所よりもより高い場所を目指して逃げて下さい。近くに高台などが無い場合は、鉄筋コンクリートなどでできた背が高く、頑丈な建物のできれば3階以上に避難して下さい。決して様子を見に海へ近づいたりしないで下さい。

#### 参考文献

- 1) 内閣府・災害時の避難に関する専門調査会第3回会合 [http://www.bousai.go.jp/jishin/chubou/taisaku\\_tsunami/3/4-2.pdf](http://www.bousai.go.jp/jishin/chubou/taisaku_tsunami/3/4-2.pdf)
- 2) 東日本大震災発生時・テレビは何を伝えたか NHK 放送文化研究所・メディア研究部・番組研究グループ 放送研究と調査 MAY 2011

\*1 名古屋大学減災連携研究センター 技術補佐員  
 \*2 名古屋大学減災連携研究センター 教授・工博  
 \*3 名古屋大学災害対策室 教授・工博  
 \*4 名古屋大学減災連携研究センター 准教授・博士(工学)

\*1 Technical Assistant, Disaster Mitigation Research Center, Nagoya Univ.  
 \*2 Prof., Disaster Mitigation Research Center, Nagoya Univ., Dr. Eng.  
 \*3 Prof., Disaster Management Office, Nagoya Univ., Dr. Eng.  
 \*4 Assoc. Prof., Disaster Mitigation Research Center, Nagoya Univ., Dr.Eng.